

AIFA U-14サッカー選手権大会2023 名古屋 決勝トーナメント 審判割

※ 審判をする上で、以下のことに注意してください

- 主審、第4審の割り当てについて
 - ・ 主審、第4審は共に指導者が担当し、審判担当チーム同士で事前に話し合って決定しておく
 - ・ 会場担当チームと対戦するチームは、主審を担当する
 - ・ 審判担当は、試合開始30分前までには必ず会場本部に到着する
 - 主審担当者について
 - ・ 必ず有資格者が担当し、審判服を着用し、ワッペンをつけること
 - ・ 必要に応じて、対戦チームのユニフォームの決定のコイントスを行う
 - 副審担当者について
 - ・ 原則、対戦チームから1名ずつ選出し、自チーム側の副審を務めること
 - ・ 選手でもよいが、競技規則をよく理解している者が務めること
 - ・ できる限り審判服を着用すること
(審判服が用意できない場合、選手と判別できる色のウェア・ビブスを着用する)
- ※ 人数不足により監督が担当することで、登録以外の大人をベンチに入れることになる場合、事前に競技委員長：安藤に連絡すること

1/13～27に実施される試合

2試合行う会場			3試合行う会場※1/20(土)、27(土)の天白学体会場、中川学体会場			
	第1試合	第2試合		第1試合	第2試合	第3試合
主審・4審	第2試合のチーム	第1試合のチーム	主審・4審	第3試合のチーム	第1試合のチーム	第2試合のチーム

2月10日(土) 準々決勝 会場および開始時間 未定 後日連絡します。主審・第4審は協会より派遣します。

2月17日(土) 準決勝 港サッカー場会場

	主 審	第1副審	第2副審	第4の審判員
準決勝 9:45	協会派遣	協会派遣	協会派遣	協会派遣
準決勝 11:20	協会派遣	協会派遣	協会派遣	協会派遣

2月18日(日) 決勝 テラスボ鶴舞イースト会場

決勝 9:00	協会派遣	協会派遣	協会派遣	協会派遣
------------	------	------	------	------

会場使用について(総会資料より)

- (1) ベンチ及びその周辺には、登録した監督・コーチ・選手以外の者(登録外選手や保護者など)が入らないように、チームで徹底してください。
- (2) ゴミは各チームで必ず持ち帰り、監督責任者で更衣場所の点検を行ってください。(会場付近についても同様)
- (3) スパイクなどについた土や泥は、必ずグラウンドで落とし、更衣場所を汚さないようにしてください。やむを得ず汚れた場合には、掃除して帰るようにしてください。
- (4) 器物破損が生じた場合は、必ず会場責任者に報告し、指示に従ってください。
- (5) **会場へ問い合わせはしないでください。また、保護者の車の乗り入れ、会場付近の路上駐車はやめてください。各会場への自家用車の乗り入れには、指定駐車券(監督用、審判用)の提示が必要です。**
- (6) 学校・学校体育センター敷地内は禁煙です。また、会場周辺で喫煙の際は、必ず吸い殻の始末をしてください。
- (7) 学校体育センターは**9時以前**に集合しないでください。また、周辺の公園で集合したり、アップ等の活動をしたりしないでください。

審判について

レフェリーは、ルールが尊重され、試合に関わる全員がサッカーを楽しめるように、選手がプレーに集中できる環境作りを助けるための存在です。安全と公平性が保障された試合となるように、ゲームコントロールに励んでください。

(1) 競技規則(ルールブック)をよく読みましょう。

試合中に気になったことや疑問に思ったことなど、ぜひ競技規則で確認しましょう。競技規則で特にチームに指導していただきたいこと、レフェリーとして特に留意して、適用ミスのないようにしていただきたいことは以下になります。

① オフサイド

- ・ 反則が起きた場所からプレーを再開する。(副審は、フラッグアップするまで、ボールを追うことを止めない意識に改める必要がある)
- ・ 主審が再開場所を決定する。副審は、主審との確認がとれた後、すぐにオフサイドラインにポジションをとる。

② ペナルティキックとPK方式

- 反則と罰則、再開方法についての適用ミスがないように改めて確認をお願いします。
- それらに間違いがあった場合は本部やベンチから確認するなど、適用ミスを未然に防ぐことができるようにできるとよいと思います。
- ・ キックフェイントは最も罰すべき行為である。(警告→相手の間接FK)
- ・ ゴールキーパーがキック前に前方に飛び出したことによりゴールを阻止した場合、一度目は注意、2度目以降警告となる。(PK方式中に繰り返すことで退場になる場合もある)
- ・ PK方式中でも両チームの競技者の数は同数にする。(キッカーを外れた競技者はベンチに退く)

(2) 起きた現象(ファウル)をよく見ましょう。

- ・ レフェリーとして、争点がよく見えるポジションに立ちましょう。
(争点=選手同士が接触する点が見える位置に角度を合わせるために、サイドステップなどを使いましょう)
- ・ 激しい身体的接触をともなうプレーはサッカーの醍醐味の1つであると同時に身体接触がある競技である以上ファウルは起きうるものです。ファウルの意図やファウルされた側の状況(明らかにチームにとって不利になる、耐えられない状態でファウルを受けているなど)を見極め、感覚的に決めつけずに、起きた現象(ファウル)をよく見て、急がずに判定しましょう。

(3) 戦える(タフな)選手を育てましょう。

- ・ プレーオンを活用し、手や腕を不正使用した些細なファウルを受けても、もう1プレーがんばることができるたくましい選手を育てましょう。
- ・ 激しくタフなプレーは認め、シャツを引っ張るなどの些細でも悪意あるプレーには厳しく対処しましょう。
→正しいチャージでの当たり負けをファウルとしない。ボールにチャレンジせず、相手のプレーを妨げようとするファウルを見逃さない。

試合前の審判員同士の打合せや、試合後の意見交換などを積極的にに行い、指導者同士だけでなく、選手や保護者ともルールの理解と共通認識をさらに深めていただきますよう、よろしくお願いいたします。